

塚本英吾さん百名山達成記念登山（筑波山）報告書

山城 筑波山

日程 平成 24 年 9 月 28 日～9 月 30 日

メンバー

塚本 英吾

金子 清 (CL) 佐溝 直彦 (幹事) 竹内 幹雄 (幹事) 森 克己 (幹事)

青木 久 浜島 弘一 油井 武 (祝賀会司会) 不破 孝浩 (写真) 岩崎 芳彦

渡辺 幸夫 青山 武 福井 正信 渡辺 勝利 渡辺 育子 町田 修 中山 正夫

吉川 浩行 (会計) (木下 慎一 木下 武子) 津田 廣一 (記録)



第 1 日目 (9/28) デンソー厚生年金会館 P (刈谷) →古河 (ホテル) 移動

第 2 日目 (9/29) ホテル→筑波山神社登山口ー男体山ー女体山ー登山口→ホテル

第 3 日目 (9/30) ホテル→デンソー厚生年金会館 P (刈谷) 移動

第一日目 9/28 (金) 曇り 歩行=2H

ホテル発 (15:00) ー渡良瀬川沿い散策ーホテル着 (17:00)

4 台の車に分乗、刈谷を 7 時過ぎに出発。14 時頃に古河のホテルへ到着。金子の案内で、明日の準備運動と称して、全員で渡良瀬川の散策へ。散策というよ



り速足歩行か? ホテルの大浴場でかいた汗を流してさっぱりした所で、前祝いの居酒屋へ。森とも合流し、乾杯! 明日の登頂を確信した宴と名物の饅頭ギョーザは格別だった。





第二日目 9/29(土) 晴れ 歩行=5H 30M

ホテル発(7:30)→筑波山神社登山口P(8:40) 出発(9:00) - 樹林の中1本400m付近(9:40) - 樹林の中1本700m付近(10:35) - ケブルカー山頂駅広場1本(11:00) - 男体山山頂(11:20) - ケブルカー山頂駅広場1本(11:35) - 女体山山頂(12:20) - 山頂直下広場で祝杯(12:30) - 下山開始(12:50) - 樹林の中1本(13:50) - 筑波山神社下山(15:00)

ホテルで爆睡、しっかりと朝食を平らげて体調万全。茨城へ向中の森の案内で、分乗して登山口へ向かう。筑波山神社近くの駐車場へ乗りつけ、登山準備。何と、富士山が見える。最高の登山日和。地元の人曰く、「富士山は、中々、見えないよ。いい日に来られたね。」

筑波山神社で安全を祈願して出発。さすが、百名山だけあって、登る人も多い。リーダー金子が、一人の若い女性ハイカーへ声をかける。このH嬢と意気投合して、今日一日、一緒に登山を楽しむ事になるとは、誰一人、知るよしもなし。最初は、平坦な登りが続く。平均年齢を考慮し、完全なポレポレペース。30分程歩くと、勾配が厳しくなってきた。インターネットに「舐めたらいけない筑波山」(御幸ヶ原コース)と、あった通りだ。病み上がりの渡辺(幸)さんのペースが怪しくなってくる。樹林の中、1本を取るも、大事をとって、金子と青山さん付き添いで3人、ケーブルカーで登る事に。リーダーを竹内さんと交代し、14人のメンバーは、紅一点のH嬢との会話も楽しみながら、賑やかに登る。勾配も先程の箇所が一番、厳しかった様だ。40分程歩いて1本を取った場所には、ツリガネニンジンの一風変わった花が咲いていた。行動食を食べ、20分も歩くと山頂駅広場へ。残念ながら上に登って来ると、ガスって視界が悪い。ここで、ケーブルカー組の渡



辺(幸)さんのペースが怪しくなってくる。樹林の中、1本を取るも、大事をとって、金子と青山さん付き添いで3人、ケーブルカーで登る事に。リーダーを竹内さんと交代し、14人のメンバーは、紅一点のH嬢との会話も楽しみながら、賑やかに登る。勾配も先程の箇所が一番、厳しかった様だ。40分程歩いて1本を取った場所には、ツリガネニンジンの一風変わった花が咲いていた。行動食を食べ、20分も歩くと山頂駅広場へ。残念ながら上に登って来ると、ガスって視界が悪い。ここで、ケーブルカー組の渡

辺さんご夫妻、幸さん、青山さん、金子と合流。まずは、男体山へ。広場で昼食を食べて、全員で最高峰の女体山へ向かう。15分ばかりで女体山直下の広場へ到着。頂上は狭いとの事で、ここで



全員記念写真をパチリ。周囲の人達からも祝福の拍手を頂戴。祝杯の前に、とにかく頂上へ。頂上を踏んで、広場へ戻り持参した“空”で、浜島さんの音頭で乾杯！“塚本さん、百名山達成おめでとう！”最高の美酒を味わった後、下山開始。下りは白雲橋コース。奇岩が続き、結構面白い。下りは、全員元気に筑波山神社に下山。すっかり、仲

良しになったH嬢と分かれ、ホテルへ。大浴場で、一日の疲れを癒して祝賀会へ。

お祝いに駆けつけて下さった木下夫妻も混じって、青木さんの乾杯に始まり、油井さん司会で祝賀会が賑やかに行われ、気持ちよく酔って1日が終了した。

お祝いに駆けつけて下さった木下夫妻も混じって、青木さんの乾杯に始まり、油井さん司会で祝賀会が賑やかに行われ、気持ちよく酔って1日が終了した。



第三日目 9/30 (日) 曇り後雨

ホテル発(8:30)→デンソー厚生年金会館P (刈谷) (14:30)

台風が懸念された為、出発を1h早めて8:30にホテルを出発。木下夫妻と森に別れの言葉を交わして、刈谷を目指す。幸いにも、道路は渋滞しておらず、東京を意外に早く通過。東名・新東名を雨を気にして走る。刈谷に到着寸前から雨も降りだすも、土砂降りになる前に到着する事が出来、無事に記念登山を終了する事が出来た。塚本さん、改めて、百名山登頂、おめでとうございます。

<リーダー所見>

塚本さん日本百名山完登おめでとうございます。

今年5月、山岳部例会(やまびこ祭)の宴席で塚本さんから、筑波山(茨城県つくば市)に登れば日本百名山達成と聞きました。茨城県古河市の京三電機に出向(今年1月~)した山仲間の森克己さんも誘い、記念登山が企画出来ないか・・・と思い、図々しくも幹事を名乗り出ました。

早速、OB・現役の皆様へ案内し、総勢21名の参加表明がありました。

準備にあたり佐溝さん、竹内さん、森さん、油井さんにご協力を頂きました。

- ・佐溝さんには日本百名山登頂記録をまとめて頂きました。
- ・竹内さんにはお祝いの横断幕を製作(手作り)して頂きました。
- ・森さんには筑波山の登山コースを下見して頂きました。
- ・油井さんにはお祝い会(宴席)の司会を楽しく進行して頂きました。

本当にありがとうございました。

また、山頂売店で筑波山名入りTシャツを購入し皆様に寄書を頂きました。

参加者の中には病みあがりの方も見えましたが、「塚本さんの百名山達成の瞬間を現地でお祝いしたい！」と言う思いが通じ、お陰さまで山頂で日本百名山完登の祝杯を全員であげることが出来ました。

期間中、台風17号、18号が接近し心配しましたが、塚本さんの強運で台風の隙間をぬって記念登山を実行することが出来ました。ラッキーでした。

皆様のご協力に感謝致します。ありがとうございました。(金子 清)

<参加者メッセージ>

「足のむくま・気のむくま・これからも一緒に登りましょう」 (佐溝 直彦)

「塚本さん、百名山完登おめでとうございます。下山後の記念写真を見て一緒に行けなかったのが、残念でした。百名山完登は多くの方が達成しているようですが、登山人口からしたら一握りでしょうし、登山のなかではヒマラヤ8000米全制覇や7大陸最高峰登頂と同じでひとつの金字塔だと思います。これからは違う目標を持って登り続けて達成したら、またみんなで一杯飲みましょう。」 (木下 慎一・武子)

「筑波山 つくつくぼうし お出迎え 塚さん完登 百の名山」 (油井 武)

「筑波嶺や 名残蝉の音 季(とき)がゆく

みなさま、普通ならまず行くことの無い常陸の国に行くことができ、楽しい思い出ができました、ありがとうございました。」

(中山 正夫)

「百名山の完登、おめでとうございます。これを一つの通過点として、さらに二百、三百と歩き続け、後に続く後輩の道標になって下さい。お願いします。

百名山、達成記念の筑波嶺を、登りて先輩の快拳讃えん」

(渡辺 勝利)

「百名山の達成、おめでとうございます。奥様の洋子さんの内助の功にも拍手を送ります。お二人のチームワークに乾杯！

(渡辺 育子)

「まず初めに塚本英吾さんにこの度の快拳を心よりお祝いを申し上げる。

『おめでとうございます!!』

100名山を登るということは山をやるものは誰もが思い描くところであるが、ほとんどは達成できずにいる。

その理由は各自それぞれにあると思うが、いろいろな条件が整わないと成功は難しいと思われる。

私なりにその条件を考えると次のようである。

まずは健康で登山できる体力と技術があること。時間があること。資金があること。

調査、研究し綿密な計画が立案できること。そして信頼できるパートナーがあること。更に家族の協力、理解があること。

最後は100名山は長い期間掛かるだけに完登するぞというエネルギーが持続できることである。

この最後のことは人は根性だとか執念と言うが、本当に山が好きな塚本さんは気が付いたら100座目が筑波山であったと言いきそうである。

いずれにしても困難な条件を乗り越え100名山を完登されたことは「偉業」であり、この達成した瞬間の筑波山に一緒に山行が出来たことは誠に嬉しく、有り難く思っている。

聞くとところによると、既に次の目標に向けて活動しているとのこと。いつまでも元気で活躍されるようお願いしております。」

(岩崎 芳彦)

「百名山登頂達成を励みに

永い年月を事故や怪我もなく、頑張られた事に感動しました。

ご家族・同道の山行者の協力や・仲間の絆を得、健康を維持され、人一倍ご努力をされたことと思います。

不屈の精神とはいえ、体調不良など、当日の山行を中止したいことも有ったと思います。

私もこれから、病を道ずれに、先輩の影を踏みながら、山が好き・酒が好き・・・も好きと、楽しい山行になるよう、

師として更にご指導願いたく、宜しく申し上げます。バンザイ。」

(不破 孝浩)

「百名山登頂、おめでとうございます。この記念すべき日をご一緒させて頂けた事に、大変感謝しております。

また機会ありましたら、是非ご一緒させて頂いて下さい。次の目標：百歳まで頑張ってください。」

(吉川 浩行)

「おめでとうございます。塚本さんから、目標を持つことの大切さを学びました。

とても真似は出来ませんが、頑張ろうと思う今日この頃です。」

(渡辺 幸夫)

「塚本さん日本百名山完登おめでとうございます。」

今回の記念登山時に配られた百名山登頂記録のまとめを見せて頂き、改めて山歴の長さと変わらぬ情熱、常に同行の山友達がいて山を友と一緒に楽しみながら登る、まさしく理想的と思われるような記録の一覧でした。私もいくつか同行させて頂き、事前の詳細な下調べ、屈託のない地元の人への聞き込みや会話、安全第一の登山行動を肌で感じ、真似が出来たら良いなと思っています。

塚本さんの百名山の次の抱負。「二百、三百名山やふるさと富士」が「やまびこ6号」の「百名山出会いと挑戦、その後」に述べられていました。

これからも健康に留意しながら山行を続けられ、次の「二百名山完登記念」、「ふるさと富士100山記念」等のイベントへの参加出来るのを楽しみに待っています。」 (福井 正信)

「塚本さんの山登りは必ずパートナーがいます。言いかえればパートナーが必要です。その心は、寡黙に山に登ることがとても苦手なんです。塚本さんのイメージは口をあけて何か話している姿です。今回100名山に登られましたが、その大半は竹内さんの同伴でした。聞き役の竹内さんの存在なくして100名山の達成はもっと時間がかかっていたかもしれません。私はもっぱら合宿や例会で北・南アルプスを中心に一緒にさせていただきました。今後も機会を作って、たくさん話を聞きながら一緒にできる山行を楽しみにしたいと思います。筑波山麓の古河の蕎麦屋でも話しましたが、100名山後のキーワードは「通過点＝再チャレンジ」「ゼロリセット＝新目標」と思いますが、第三者が言うことではありません。樫の木会の筆頭現役として、益々達者で誰それとにぎやかにお山を楽しんでください。」 (町田 修)

「たくさんの方に、一緒に楽しく登ることができました。これからも、いろんな山に登りましょう。」 (竹内 幹雄)

「塚本君、百名山完登おめでとう。デンソー山岳部の歴史の中に輝くページを加えてくれました。筑波山が千米にも足らない山にも不拘、百名山に選ばれたのは、その歴史にあるので、雪の富士、紫の筑波と古来吟詠の対象であった関東の名山、然し常陸平野に聳える筑波山は意外に手強く、中々の山でした。男神女神の二峰並立のこの美しい山が百名山完登記念の山と事に心からお慶び申し上げます。」 (青木 久)

「百名山完登おめでとう御座います。塚本さんの山に対する意欲には敬服します。今継続中のふるさと富士も百名山達成したいので、今後共ご指導よろしくお願い致します。」

百名山達成 ばんざい、ばんざい!!!」 (青山 武)

「塚本さん 百名山おめでとうございます。大きな節目だと思いますが、200名山・300名山マイペース500名山を目指して頑張ってください。」

先日は、諸先輩方々の元気な山行されるお姿を拝見し尊敬の一念です。

山びこ祭に電話頂き、塚本さんの栄えある100座目が筑波山ということでお手伝いできたこと、

それ以上に冬眠した山への思いが復活し、今年、5座も登ることができました。感謝申し上げます。

関東の山へお越しの際は、ぜひお越しください。運転手兼務で、ぜひまた、一緒にできればと思います。

おめでとうございます。ありがとうございました。」 (森 克己)

「塚本さん、日本百名山達成ほんとうにおめでとうございます。そして小生も同行した山があって「一枚加えてもらった」のだと自分の都合の良いように解釈をして、嬉しくなりました。これからも次の目標に挑戦されると思いますが、この次も「一枚加わっていた」となるようにしたいと思って居りますので宜しく。」 (浜島 弘一)

「塚本さん、おめでとうございます。いつも、「さ～行くぞ!」と、トップで出発される元気な塚本さんのイメージが、私の中に出来上がっています。これからも、お元気で多くの山へ登って下さい。是非、一緒にしたいと思います。又、私も出来れば塚本さんに続きたいと思います。」 (津田 廣一)